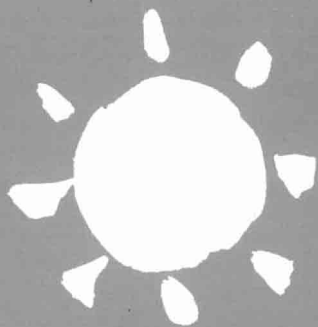


日本作文の会編

日本の 子どもの詩

佐賀





日本作文の会編

日本の
子どもの詩

佐賀

岩崎書店

日本作文の会

日本の子どもの詩 41

岩崎書店 昭59

110p 21cm

内容：41 佐賀

〔分〕911

日本の子どもの詩 41 佐賀

一九八四年三月一〇日 初版発行

編者 日本作文の会

発行者 大川松利

印刷所 株式会社 K・M・S

株式会社 金羊社

製本所 小高製本工業株式会社

発行所 岩崎書店

東京都文京区水道一―九―二
電話(〇三)八二一九三二(代)

©1984 Nippon Sakubunno kai ISBN4-265-93841-8

—Published by IWASAKI SHOTEN. Tokyo, Japan—

はじめに

各都道府県別につくられた四十七冊のこの本ぜんたいには、一九一八年「赤い鳥」が創刊されてからあとの六〇年間につくられた、日本の子どもたちの詩のおもなものが、年代順にならべてあります。

これらの詩は、そのときどきによって、児童自由詩、童詩、児童詩、児童生活詩、生活童詩、生活綴方の詩などともよばれ、世界にもまれなものであります。

これらは、ねっしんな先生たちによる創造的な教育のいなみとしてうまれたものですが、日本の子ども自身がつくரிだした芸術（現代の子どもの「わらべうた」）としても、大きな意味があります。

わたくしたちは、このことを頭において、念入りにこの本をつくりました。

この一冊は、そのうちの「佐賀編」であります。どうぞ、ひとつひとつといねいにお読みください。



1918
~
1945

13	12	11	10	9	8
ゆうぐれ	雨	菊の花	ちっちつ鳥	唐津帰り	夕べの道
					暖かい日
					暖かい日
					秋の小路
					稲扱機械
					山田登り
					水田
					新しい下駄
					旅
					粉雪
					日曜日の前
					露

20	19	18	17	16	15	14
石炭	朝の稲こぎ	兄さんの出征	いろいろ	太陽	豆まき	子もり
						鎌
						ユウガタ
						ちようちん
						虹
						おちたつばき
						たこ
						雀
						汽車
						からす
						月
						つゆの玉
						木のは
						きしや
						にじ
						あきのそら



1945
～
1959

22

つばめの子
おそうじ

よる

雨

23

ほからかな有馬くん
おかあさんのおけしう

24

トラホーム
私の顔

朝

25

筑後川の夕暮
月

26

馬糞
引揚げの思い出

27

いたいさんぽつ
おかあさん

28

がね
おもり

29

ゼット機
草とり

ささ船

30

おとうさんの船

31

労働者
学級新聞

32

働く母
たいふう

33

お月さま
いねこぎ

いもほり

34

いわしあみ
いねかり

35

柿の実
せわがたいへん

おとうさん

36

くつ下のおい
みんな生きている

37

かあちゃん
ぼくのゆめ

38

机
みのりの秋に

41

山いも
おおきくなったら

42

夕やけ
カバン

43

けんか
おとうさんの足

ポスト

雨

44 佐賀平野の初冬
もちつき

おかあさん

45 たんぽけ

たこ

僕の母

46 浜千鳥

お金

47 西唐津港

職業



1960
～
1969

50 ひばりの赤ちゃん

めだか

小石

51 田代先生

かえる

くちなしの花

52 おかあさん

おかゆの米

53 船が帰ってこない

共同風呂

54 お母さん

夜の工場

のら犬

55 雨

ぶらんこ

テレビ

しんぶん

56 おかあさん

おちゃいり

57 か

かなしかった

ほたる

58 かに

おくすり

59 おかあさん

ティーカップ

60 いき道

たいふう

さかなつり

61 かけっこ

きりの木

たっちゃんはいびき

62 ぼくのトレパン

いりこせいぞう

63 船

コンチョー

64 みかんちぎり

傷跡

山野炭鉱ガス爆発を新聞で読んで

やぎ

65 ちくご川

学きゅういん

ばなかけ

67 おかあさん

うちのねこ

68 ほり

おかあさんの手

航空母かん

69 冬の田んぼ

夜の道

70 真珠貝そうじ

月と鍬

71 雪の日

人間たちよ

72 僕の九年間



1970

～

74

おとうさん

せんせい

おかあさん

75 木下くん

大好きなおじさん

76 かあちゃんのが

にわとり

こいのぼり

77 歯のけんさ

春一番

かめ

78 鳥の大群

ユニセフ募金

79 河井醉茗のゆずり葉の詩にこたえて

玄関先で

80 お母さんの笑顔

スマートさんへ

81 柿の木

いじめっ子

82 ざりがに

学校かえり

83 ひまわり

せんせいのよわむし

84 せんせい

おとうさん

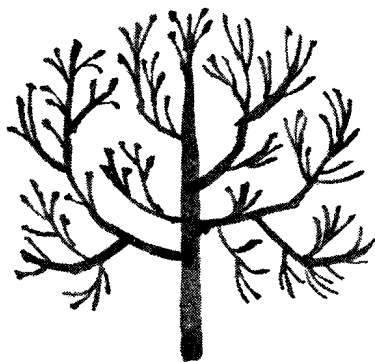
か

85 ながれ星

ガラス雨ダンス

クーラー

86	あり	97	消灯
	オオバコ		遊び
87	あぜつくり	98	ゆき
	先生		ゆみこのかみ
88	つばめ		かえるのとうみん
	お母さん代り	99	お母さんわたしのことすき
89	小さな約束		みきさん
	夢	100	閉校する馬川小学校
90	選手変更		自然
	すずむし	101	ふとつちよとやせつばち
91	いもうと		小さな駅
	しゃぼんだま	102	お茶くみ
	校ちょう先生のてつだい		火事のもと
92	かみありたのとうき市	103	新聞配達
	平野君のこと		母からもらった三面鏡
93	一つでも	104	きになる異性
	おとうさん		雪
94	バスケット	105	受験前
	海		ふとんの中の母
95	秋		*
	ダンス		
96	おんぶバッタ	110	あとがき——佐賀県の児童詩指導の歩み
	私の反抗期	107	この本の編集をした人たち



1918～1945

(大正7年)

(昭和20年)

佐賀県の子どもがはじめて
詩を書きはじめたころの作品。
そして、
詩と書くことがひろがって、
たくさんの子どもたちが
自分の生活を見つめて書いた作品。
ここには
こんな詩が年代をおって出ている。

霧

太田裕二郎 十五歳

私は昨日川上に行った。
帰りに川辺に腰かけて、
川を見ながら蜜柑みかんを食べた。
夕日が遠くの雑木林しずに沈んだ。
川は赤く光っていた。
川の中の砂浜の上を、
釣竿つりざおかついだ人が
歩いていった。
あたりが、
だんだん青靄あおもやに、
つつまれて行った。
淋さびしかった。

佐賀市椎小路三五二

8

日曜日の前

太田三郎 中1

土曜日の晩に、
電燈を低くつり下げて、
麦茶すすりながら新聞を読む。
外にはかすかな雨の音。

佐賀市佐賀校

粉雪

太田三郎 中1

舞まながら粉雪がふる。
裏にいつてみよか、
ざぼんが、
落ちてるかも知れない。

佐賀市佐賀校



旅

旅に行くと、
まだ四月なのに、
せみが鳴いていた。

太田三郎 中1

佐賀市佐賀校

新しい下駄^{げた}

買ったばかりの下駄はいて、
今朝学校に来た。
学校に来て見たら
新しい下駄が外にも
二、三足あった。

川岡ゆく 高2

藤津郡多良校



水田

水田の上に、つないである牛。
その牛のかげが
濁^{にご}り水にうつって
水の底にも牛がいるようだ。

蕪竹三平 高2

藤津郡多良校(指導)吉田瑞穂

山田登り

山田に登る道、
かっぽん鳥が
かっぽんかっぽんと
やさしく鳴いた。
足をとめて聞いていたら、
それと一しよに、
ひよどりが
くいいくいと

蕪竹三平 高2

苦しいような
声を立てて鳴いた。

藤津郡多良校(指導)吉田瑞穂

稲扱機械

よそから借りて来た

稲扱機械

母から叱られても

回してみたい

燕竹三平 高2

藤津郡多良校(指導)吉田瑞穂

秋の小路

秋の小路を

歩いてみると、

足をなでる。

樟油木の花が

真白く咲いて、

中村多八郎 高2

はげの木の紅葉したのが、
あちこちに見える。

秋の葉っぱに坐っていると、

たくさん草の穂が

顔をなでる。

藤津郡多良校(指導)吉田瑞穂

すずめ

杉本黒木 高2

落葉して葉の少ない木から

落ちるように

すずめがおりた

藤津郡多良校(指導)吉田瑞穂

暖かい日

中村多八郎 高2

彼岸花も枯れて来たよ。

もうそろそろ寒くなるんだ。

小川の岸に

しゃがんで見てたら、
目高がちよろちよろ
泳いでいたよ。

蛙が一匹小川の石に、
しゃがんでいるよ。

石がぬくもって

蛙もぬくいようにしているな。

何をいつまで見てるんだらう。

向うの家には

陽炎^{かげろ}が立っているよ。

藤津郡多良校(指導)吉田瑞穂

暖かい日

家田繁一 高2

ほんとうに暖かい日だ。

静かな川だ。

静かな小川に

かごの皮がつけてある。

岸辺のぐみの木。

芽が萌えた。

II

静かな川を

静かな風が通って行く。

ほんとに暖かい日だ。

ほんとに静かな川だ。

ほんとに暖かい日だ。

静かなお山だ。

静かな山の

竹の葉がゆれる。

静かな山に目白が鳴く。

お山の梅も満開だ。

静かな山を

大きなとびがとんで行く。

ほんとに暖かい日だ。

静かなお山だ。

藤津郡多良校(指導)吉田瑞穂

夕べの道

太田三郎 中2

床屋^{とぎや}の帰り、

石けりながら、
夕べの道を帰りくる。

佐賀市佐賀校

ちいちい鳥が思い出される。

藤津郡多良校

唐津^{からつ}帰り

唐津から帰ってくれば、
家ではせんぶうきが
にぶい音を立てていた。
その前でおばあさんが
ひとり坐^{すわ}っていた。

太田三郎 中2

佐賀市佐賀校

ちつつ鳥

日のあたたつた暖かいところに、
日なたぼっこしていたら、
ちつつ鳥がないた。
お父さんから買ってもらった、

萩原美知子 小6

菊の花

お庭の菊が咲き出した。
きのうのつぼみは今日さいた。
今日のつぼみはあす咲くか。
たくさん咲いたら神様に
たくさんとってあげましょう。

北御門 巖 小4

三養基郡基里校

雨

雨がざあざあ降って来た。
ちゃばちゃばとあまだれが、
家のやねからおちてくる。
うけどいからぼくぼく出る雨が、
うらの道に流れていった。

松永レイ 小3

しずかな音で流れていった。

三養基郡北茂安校

ゆうぐれ

小柳茂治 小3

おさかなたくさん
つりました。

五匹十匹二十匹

いろんなおはなもつみました。

お空はまっかだ。

ゆうやけだ。

あしたも天気だ。

うれしいな。

佐賀郡鍋島校

あきのそら

柳島吉次 小3

白い白い

とうふのようなそらを

13

じいつと見ているよ
秋のまひる

佐賀郡鍋島校

にじ

杵島初枝 小3

にじがでた。

にじがでた。

ひがしのそらに、

にじがでた。

みなさん

ばんざい　いたしましよ

東松浦郡満島校

きしや

村岡光男 小3

きしやがきた

きしやがきた

のはらで子どもが

あそんでる

きしやの中から

ばんばんざい

のはらの子どもも

ばんばんざい

佐賀郡鍋島校

木のは

木の はが くるくる

まって きた

あちらの ほうでは

あかちゃんが

びよこびよこ おどって

うれしがる

千住フミ子 小2

神埼郡芙蓉校



つゆの玉

東のお山から朝日が出てる

草のせのつゆが光ってる

朝日よ

のぼるじゃないぞ

つゆの玉

おちるじゃないぞ

佐野富身 小3

佐賀市勤興校

月

ひがしから月がでた月がでた

まっかな月が まんまると

まっかな月を 見たなれば

めはまっかに なるだろう

諸隈正子 小2

神埼郡芙蓉校